

# 石川県立美術館だより

平成16年11月1日発行 第253号

第51回

## 日本伝統工芸展金沢展

10月29日(金)~11月7日(日)会期中無休



NHK会長賞 塑造彩色「腰鼓遊楽」 紺谷 力



朝日新聞社賞 木地蒔絵箱「夏園」 内野 薫



牛骨と子供 清水良治 1986年

特別陳列

## 彫刻家 清水良治展

10月28日(木)~11月23日(火・祝)会期中無休

### 目次

第51回日本伝統工芸展金沢展.....	2
彫刻家 清水良治展 .....	3
尊経閣文庫名品選、石川県の名宝 .....	4
常設展示室 主な展示作品、鑑賞ファイル...	5
企画展TOPIC(着物の美) .....	6

展覧会回顧(夏休み 親子で楽しむ美術館)...	6
貸出中の所蔵品 .....	6
ミュージアムレポート、企画展示室 .....	7
11月の行事案内 .....	7
所蔵品紹介、次回の展覧会他 .....	8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

企画展示室（第7～9展示室）

第51回

日本伝統工芸展金沢展

10月29日(金)～11月7日(日)会期中無休

主催 / 石川県教育委員会・日本放送協会  
朝日新聞社・北國新聞社・日本工芸会

後援 / 文化庁・富山県教育委員会・福井県教育委員会



日本工芸会奨励賞 磁の箱「笹生」 武腰 潤



日本工芸会奨励賞 樽造盛器 川北浩彦



玉樽造盛器 川北良造



沈金箱「雪降る」 前 史雄



深厚耀彩十八稜壺 徳田八十吉



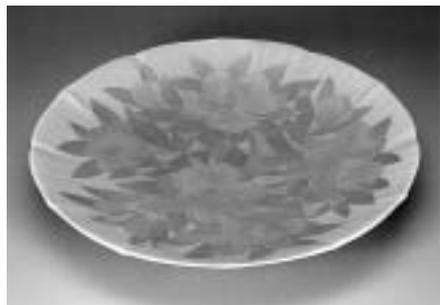
砂張文様水指「芽ぶき」 魚住為楽



平文富士光彩平棗 大場松魚



象嵌龍銀花器「渦潮」 中川 衛



釉裏金彩泰山木文大皿 吉田美統

恒例の日本伝統工芸展を開催いたします。わが国は各地の風土に根ざした工芸品を生み出し、そしてその伝統技術を大切に継承し発展させてきました。日本伝統工芸展は、優れた伝統技術の保護と後継者の育成ならびに伝統工芸に対する普及を目的として毎年開かれているものです。

今回は陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・諸工芸（七宝・硝子・瑪瑙細工・截金など）の七部門の入選作品七百三十八点の中から、重要無形文化財保持者・受賞者等の基本作品と、石川・富山・福井の各県、及びその他の県の入選作品三百五十六点を展示します。

今年の石川県内の入選者は、新入選三人を含む七十六人で、そのうち入賞者は四人を数え、都道府県別では東京都について多く、石川県の伝統工芸の層の厚さやレベルの高さをうかがわせるものでした。まず人形部門で紺谷力氏がNHK会長賞、漆芸部門で内野薫氏が朝日新聞社賞、陶芸部門の武腰潤氏と木竹工部門の川北浩彦氏が日本工芸会奨励賞をともに受賞しました。

また今年の「特別展示わざを伝える」では、「紅型」伝承者養成研修会の制作作品を展示し、同会の研修風景を収録したビデオもあわせて上映いたします。

講演会（聴講無料）  
演題 「人形と私」  
講師 林 駒夫氏  
（重要無形文化財「桐塀人形」保持者）  
日時 10月31日(日)午後1時30分  
会場 当館ホール

列品解説  
会期中10月29日午前、31日午後、11月4日午後を除く毎日、午前11時と午後1時30分の2回、人間国宝の先生を含む出品者などによる列品解説を行います。  
テレビ放映

北陸三県のNHK総合テレビで、10月31日(日)午前8時から本展の番組放映があります。再放送は11月3日(水)午後12時10分(教育テレビ)からと、6日(土)午前11時(総合テレビ)からです。

観覧料

一般	600円	個人	一般	500円	団体(20名以上)
大学生	400円		大学生	300円	
高校生以下は無料			高校生以下は無料		
一般	500円	大学生	300円	高校生以下は無料	

当館友の会会員は受付での会員証提示により、団体料金で、ご覧になれます。

常設展示室 (第3展示室)

特別陳列

# 彫刻家 清水良治展

10月28日(木)~11月23日(火・祝) 会期中無休



戦争 2003年

昭和十年、愛知県に生まれた清水氏は、三十五年に金沢美術工芸大学彫刻専攻を卒業し、彫刻家として本格的な活動を開始します。三十六年にはすでに新制作展で新作賞を受賞し、翌年も受賞、四十七年には会員に推挙され、早熟の才能を開花させています。そして師、柳原義達との出会いによって、その造形表現はさらに深められました。また師がデッサンの虫であったように、清水氏も人体を納得のゆくまで何度もデッサンして、自己の感動を彫刻に定着させ、新たな作品の創造の糧としていったのです。

清水氏の題材は、終始一貫して人体であり、スペインの文学をモチーフにした人体彫刻が五十年頃から現れはじめ、氏の作風に彩りを添え作風が多様化して現在に至っています。また造形の本質と真正面に対峙し、真実の造形論を打ちたてています。俗なるものに流されない氏のこのような姿勢は日本では数少ないものと思われま

す。一方、清水氏は、こうした作家活動とともに、永年、母校・金沢美術工芸大学で教鞭をとり後進の育成に努め、平成十二年教授を退任されています。本展では、清水氏の新制作展出品の代表作を中心に、作者の心に残るデッサンもあわせて展示し、その造形の世界をご覧いただくこととするものです。

講演会(聴講無料)  
演題「私の歩んできた道」  
講師 清水良治氏  
日時 11月14日(日)午後1時30分  
会場 当館ホール

観覧料

一般 350円	個人	団体(20名以上)
大学生 280円		
高校生以下は 無料		
一般 280円	個人	団体(20名以上)
大学生 220円		
高校生以下は 無料		



飛 1992年



哭 1991年



イカロス 1984年



独 2003年



闘牛士(トレアドール) 2003年



ドン・キ・ホーテ頭部 1987年

常設展示室（前田育徳会展示室）  
**特 集**  
**尊經閣文庫名品選**  
 10月28日(木)~11月23日(火・祝)

加賀前田家の収集品の中で、ひときわ光彩を放つものは、典籍・書類です。その収集は、三代利常に始まり、『十五番歌合』（国宝）・藤原定家筆「土佐日記」（国宝）・『兼好家集稿本』（重文）など、美術品としても価値を持つような逸品の書物が集められました。五代綱紀は利常の収書を「小松蔵書」、四代光高の収書を「金沢蔵書」とそれぞれを称しました。

綱紀自らも無類の好書家で、熱心に図書・文書を収集しました。和・漢・韓の写本や刊本の稀書・善本が、広い分野に渡って多数収集され、綱紀は自らの収書を「尊經閣蔵書」と称しました。明治以後、前田家の蔵書やその保存所を「尊經閣文庫」と称したのは、綱紀の収集した蔵書が中心となっているため、その拡張流用といえます。

綱紀は、諸種の編集事業を企画し、目的を定めて計画的に書物を収集しました。当時一流の学者を顧問に迎え、自らもよく調べ、蔵書の価値・内容を正しく把握しました。また、滅びさうとしている書物の保護にも努め、転写させた書物も少なくありません。原本の購入とともに、書写も熱心に行わせ、入手の困難なものや、書写で足るものは、転写させました。ふつうに書写させたものもありますが、重要なものは原本の形のままに模写させています。その結果、亡逸を免れ、今日に伝わった書物も少なくありません。これらの書物類は今も「尊經閣文庫」の中心を成しており、研究者に公開されています。

今回の展示では、古典文学のなかからよく知られた物語や随筆を選び、鎌倉時代から江戸時代にかけての書写とともに絵巻を加え、重要文化財三点を含む十六点を展示します。

美しくつづられた日本の文字とそこに記された世界に、日本の深い精神性を求めることができるのではないのでしょうか。

石川県には歴史的、芸術的にも優れた貴重な文化財が数多く伝えられています。まず日本海側に大きく突き出た能登は、海上交通により大陸との接触が早くから行われ開けた地域で、歴史的な風土や文化を色濃く物語る文化財が中心だといえます。一方の加賀は、古代から中世にかけて白山信仰や中央の社寺の荘園として開かれましたが、近世に入り前田家が加賀藩主となって文化の展開を見せました。前田家を中心となって収集・育成された文化財が数多く伝えられ、そして今なお各種の伝統工芸に受け継がれています。

当館では開館以来、このような文化財、とりわけ美術工芸品を中心に収集活動を行っており、また県内の社寺や個人の方々から貴重な指定文化財の寄託を受け、その保存と管理をしているものも少なくありません。そして県民の皆様は、先人の残した貴重な文化遺産を少しでも深く理解し認識していただくため、そうした文化財を機会あることに公開しています。今回も所蔵品・寄託品の中から、国宝と重要文化財に、県や市の指定文化財を加えた絵画、書跡、工芸、刀剣の二十七点を展示します。

では出品作品の中から二点をご紹介しましょう。

今回唯一の国宝「剣 銘吉光」（白山比咩神社蔵）は、短刀や剣に優れた手腕を発揮した吉光の代表作です。これは、三代将軍徳川家光の養女阿智子（清泰院）が四代藩主前田光高に嫁入りした際の持参品でしたが、清泰院が亡くなった後の明暦三年（一六五七）に、子である五代藩主綱紀が、母の冥福を祈って奉納したものです。

重要文化財「太政官符」（個人蔵）は宝龜三年（七七二）五月二十日付けのものですが、その頃太政官の事務局に当たる弁官局にいた、大伴家持の自筆署名があります。『万葉集』編者として知られる家持の筆跡で現存するものは極めて少なく、大変貴重なものです。

常設展示室（第2展示室）

**特 集**  
**石川県の名宝**  
 10月28日(木)~11月23日(火・祝)



太政官符 宝龜3年(772) 個人蔵



●剣 銘吉光 鎌倉時代中期 白山比咩神社蔵

常設展示室

# 主な展示作品

10月28日(木)~11月23日(火・祝)

●=国宝    =重要文化財    =石川県指定文化財



月夜双狼図 友田九溪



酔って候 鴨居 玲

一般 350円	個人	一般 280円	団体 (20名以上)
大学生 280円		大学生 220円	
高校生以下は 無料		高校生以下は 無料	
観覧料			

- 前田育徳会展示室
  - 特集 尊經閣文庫名品選
  - 伊勢物語
  - 枕草子
  - 一遍上人絵巻
  - 第1展示室
    - 色絵雄香炉
    - 色絵雌雄香炉
  - 第2展示室
    - 色絵百花散双鳥図平鉢 古九谷
    - 青手樹木図平鉢 古九谷
    - 特集 石川県の名宝
    - 剣 銘吉光 白山比咩神社蔵
    - 西湖図
    - 蒔絵螺鈿野々宮図硯箱
  - 第3展示室(彫塑)
    - 特別陳列 彫刻家 清水良治展
    - 3ページをご覧ください。
  - 第4展示室(油彩画・彫塑)
    - 油彩画
    - 酔って候
    - ペギーの道
    - 裸女達に捧ぐ
    - 彫塑
    - 古代への想い
    - 山羊を飼う老人
  - 第5展示室(工芸)
    - 色絵更紗文蓋付飾壺
    - 蓬萊之棚
    - 友禪訪問着「魚のむれ」
    - 太刀
  - 第6展示室(日本画)
    - 咆哮
    - 月夜双狼図
    - 雪雲来る
- 伝明融筆
- 野々村仁清
- 野々村仁清
- 尾形光琳
- 秋月等観
- 吉光
- 鴨居 玲
- 藤本東一良
- 宮本三郎
- 石田康夫
- 吉田三郎
- 富本憲吉
- 松田権六
- 木村雨山
- 隅谷正峯
- 木島桜谷
- 友田九溪
- 曲子明良

## 鑑賞ファイル No.3

### 「ペギーの道」とは?!



ペギーの道 藤本東一良

夏の特集「夏休み親子で楽しむ美術館 すてきな色を見つけよう」で、栄えある人気投票ベストワンに選ばれたのが『ペギーの道』でした。

会期中、「教会が見えますが、これはペギーという聖人が歩かれた道を描いたのですか?」との質問が寄せられました。不勉強にも「ペギーは地名だと思えますが」と答えたのですが、間違いです。お詫び申し上げます。

ペギーとは20世紀初頭に活躍したフランスのカトリック詩人、シャルル・ペギー Charles Peguy (1873-1914) のことでした。ロマン・ロランと親交が深く『ジャン・クリストフ』の出版者としても知られます。ペギーは宿願あってシャルトルの大聖堂に参詣しましたが、その後巡礼者が彼の参詣路をたどるようになり、「ペギーの道」の名が付いたのでした。

輝かしい黄色で描かれた画面一杯の麦畑の中を、ヒナゲシの赤い花がシャルトルへ向かって咲き誇り、情熱の詩人ペギーを象徴するかのようです。

## 企画展TOPIC

## 「着物の美 - 新春を寿ぐ - 」前編

## 反復の魅力 小紋

日本の伝統衣装である着物は、素材である染織品そのものの美しさを生かして、身につけることが出来ます。日本の染織品の技術が発達したのは、着物がその一端を担っていたからとも言えるでしょう。今回と次回の2回に渡って、数ある日本の染織技術の数例と、それらの作品をご紹介します。

華やかな着物の代表的な技法としては、友禅が大変よく知られています。これは布地の上に糊で輪郭等を描き、それが乾くと、防波堤のようになって、隣り合わせた色が混ざらないため、絵画のような細やかな表現が可能となります。このような糊の特質をまた別の方法で最大限に生かしたのが、今回ご紹介する小紋です。

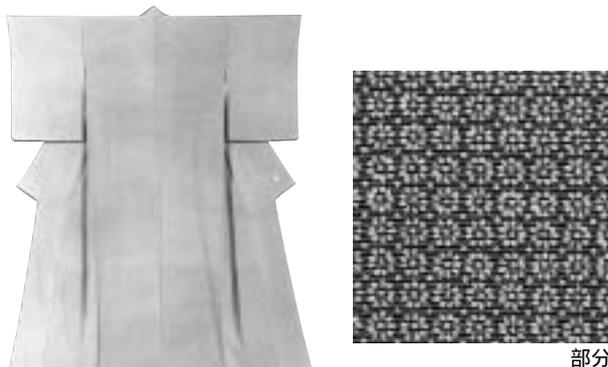
写真の着物をご覧下さい。一見すると無地の着物のようですが、この作品には極めて微細な染模様が全面に施されているのです。この模様を拡大したのがもう一点の図版で、実際は2~3センチ四方ほどの部分図です。小さな八弁の菊花が整然と並び、間に点をあしらった模様が染め上げられており、何とも粋な着物です。

これは型紙を用いた江戸小紋の作品です。型紙の中に、横が生地の幅、縦が4~6寸(約12~18センチ)の大きさでこの模様を彫り、板の上に貼った生地に型紙を置いて、上からヘラで糊を塗る、という作業を繰り返します。生地の全面にこの模様が糊で置かれ、乾いたところで、染めたい色を混ぜた糊をその上から塗りつけます。これを蒸して水洗いし、糊を落とすと、最初に型紙で糊を置いた部分が白く残り、色糊を塗った部分がその色で染め上がった模様が現れるというわけです。江戸時代の「粋」の精神を象徴する技法と言えるでしょう。

小紋染めは、江戸時代に武家の式服であった<sup>かしま</sup>袴の染色法として発達した技法です。「江戸小紋菊通し着物」というこの作品は、人間国宝の小宮康孝さんが染めた着尺を仕立てたもので、細かな菊が紫色の地の全面に白く染め抜かれた、品格のある作品です。いち早く化学染料を取り入れた技法を完成させ、江戸小紋の継承に力を尽くした、人間国宝の父康助さんの遺志を受け継いで、技術者の指導や育成に寄与しています。

(寺川和子 学芸主任)

「着物の美 - 新春を寿ぐ - 」の会期は  
2005年1月4日(火)~1月30日(日)です。



江戸小紋菊通し着物 小宮康孝

## 展覧会回顧

## 夏休み 親子で楽しむ美術館

~すてきな色を見つけよう~



夏休みの企画として、昨年度より常設展示室で始まりました「夏休み 親子で楽しむ美術館」。今回のテーマですが、色に着眼し、「~

すてきな色を見つけよう~」というサブタイトルをあげ、印象的な色の作品を約30点選び展示しました。

色といってもいろいろありますから、今回は作品を赤・黄・青・黒・金の5色に色分けして配置し、その色そのものが印象的な作品、絵のポイントとして印象的な作品など選び、昨年同様、お子さんの視点・観点に合わせて作成した観賞用の手引きを見ながら、親子で考え、会話を楽しみながら鑑賞できるようにと準備をしました。

子供を連れて美術鑑賞に来るのは、子供が騒ぐのではないか、作品の楽しみ方が解らないのではないかと心配される方も多いようです。この展示では、鑑賞手引きでも自分で考えるワークシート型のものであったり、休憩用の椅子のところには児童向けの美術本を準備してあったりと、お子さん自身でも、親子一緒にでも展示を楽しめるような工夫を心がけました。また、今回は参加スペースとして、先週号で報告しましたが、「お気に入りの色や作品をおしえてください」という投票箱を準備したところ、ただ単に作品名を記入するのみではなく、作品のこんなところが凄かったと、感想まで記入してもらえたものもたくさんありました。ありがとうございます。

常設展示は毎回展示替えて作品は入れ替わっております。夏休みの特集展示に限らず、是非親子で来館して美術鑑賞を楽しんでください。

(西ゆう子 学芸主任)

## 貸出中の所蔵品

仔猫	藤田嗣治
裸婦像	宮本三郎
立裸婦像	宮本三郎
南方従軍素描集	宮本三郎
「マライの少女」「マライの少年」	
「マライの婦人」「印度の男」他	

計10点

展覧会 藤田嗣治と宮本三郎

会期 10月8日(金)~11月21日(日)

会場 小松市立宮本三郎美術館

# ミュージアム レポート

## ギャラリートーク

8月28日(土)「国宝 色絵雉香炉」



石川県立美術館を代表する「雉香炉」ですが、作品を目の前にして講座を持つ機会は、これまでほとんどなかったように思います。雄と雌の香炉の微妙な違いや絵付の具合など、講義室とは違って

その一つ一つを確かめながらの内容でした。毎週の講座を受講している方のほか、常設展へ年に何度も足を運んでおられる方、現地見学へ毎回いらっしゃる方など多彩な顔ぶれでの1時間でした。香炉の内部は写真を使ってその構造を示しましたが、スライドだけでは理解できない部分を作品と見比べることでよくわかっていただけたように思います。参加者の間では、雄と雌に重さの違いがあることなどに関心が集まっていたようでした。

9月25日(土)「加賀藩の美術工芸」



前田育徳会展示室で開催されている、同名の展示についてのギャラリートークでしたが、第2展示室にも関連の作品が展示されていることもあり、2室に渡って1時間ほどの解説を行いました。

前田家の文化政策の概要、そして歴代藩主の中から、初代利家、三代利常、五代綱紀といった、加賀藩の文化の基礎を作った藩主たちの業績を紹介し、展覧の中の何点かの重要文化財をはじめとする作品のそれぞれが、そうした政策や業績と密接に関わっていることを説明しましたところ、さらにそれが現代の金沢の、文化的土壌の礎となっていることを、ご理解いただけたようです。

いつもお越しいただいている方々に加えて、展示室を観覧していた、観光客の方も何人か見受けられました。

## キッズ 鑑賞講座

9月11日(土)「近代日本画にみる花の表現」

キッズ 鑑賞講座の第3回目は、「日本画にみる花の表現」でした。まず、一般的によく知られていない日本画の画材について、知ってもらおうところから始めました。子供たちは岩絵の具やにかわなど珍しそうにのぞきこんできます。

そこで、胡粉(貝殻などからつくられ、下塗りに使ったり、白色の絵の具としても使います)を黒色紙にぬる体験をしてもらいました。胡粉をぬったところが乾いていくにしたがってどんどん白くなっていくことに、皆驚いていました。日本画の材料について理解を深めた後、展示室での作品鑑賞を行いました。3回目ともなると、子供たちも慣れたもので、ワークシートと鉛筆を持ち、クイズに答えながら、作者名や作品名、作品を見て気づいたことなど、積極的にメモをとっていました。



次回の鑑賞講座は、11月13日(土)「彫刻家 清水良治」です。この機会を利用して、美しい作品にふれることで感性を磨いて欲しいと思います。

## 企画展示室

### 第89回二科展金沢展

11月17日(水)~23日(火・祝)第7~9展示室

二科展を平成13年以来3年ぶりに金沢で開催いたします。絵画では理事長の鶴岡義雄(日本芸術院会員)、吉井淳二(文化勲章受章者)、織田廣喜(日本芸術院会員)らの各氏の重鎮に加え、写真でも人気作家の大竹省二氏が出品します。

入場料 一般900円 中高生700円

小学生500円 (団体料金は各200円引)

当館友の会会員は、会員証提示により団体料金になります。

連絡先 金沢市香林坊2-5-1

北國新聞社事業局 ☎076-260-3581

## お知らせ

当館の入場券をお持ちの方は、金沢21世紀美術館の入場料金が割引されます。

## 11月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月日	行事	内容	会場
11/13(土)	キッズ プログラム	鑑賞講座「彫刻家 清水良治」 (谷口 出 普及課長) 小学生対象の講座です。常設展示を鑑賞しながらの講座になります。	講義室
11/14(日)	講演会	「私の歩んできた道」 講師 清水良治氏	ホール
11/20(土)	ギャラリー・トーク	彫刻家 清水良治 (宮 衛 学芸第二課長) 展示室内で行われるため、常設展示の入場券が必要です。	常設展示室
11/21(日)	ビデオ鑑賞会	国宝10 十一面観音 向源寺・聖林寺・観音寺・法華寺・室生寺・道明寺(31分)	ホール
11/27(土)	美術講座	近代の数寄者 原三溪・松永耳庵 (高嶋清栄 学芸専門員)	講義室
11/28(日)	月例映画会	民芸陶器(縄文象嵌) 島岡達三のわざ(37分)	ホール

11月の全館休館日は24日(水)・25日(木)です。



平等院切



表見返し



## 石川県指定文化財 手鑑 貼込帖装

奈良～江戸 8～17世紀 縦39.9 横36.3(cm)

手鑑とは、筆跡鑑賞のために、卷子本や冊子本からその一部を切り取って蒐集し、厚手の台紙の帖に貼り込んだものをいいます。そこに含まれる内容は経巻や歌書・消息など様々ですが、一定の方針のもとに編集されています。本来「手」とは筆跡のことであり、「鑑」は鏡と同じで、テキストを意味します。

この手鑑は、当館所蔵の「国宝 色絵雑香炉」をはじめとする茶道美術の蒐集で知られた、もと山川コレクシオンに属した品で、全体で三十折よりなる大形のもので、短冊類も含めると総数二七四葉の切が収められています。

表紙は海老茶地に縹・緑・黄・白・鶯色の糸で、牡丹や菊・唐草文様の緞子としており、四隅と天地、左右には、螺鈿・唐草彫りの留金具が施されています。見返しは、金・銀の砂子に野毛を撒き、箔押しで雲霞を描いた斐紙に胡粉・緑・青・朱などによって表見返しには菊花と薄が、裏見返しには蘭の花の絵がそれぞれ描かれています。

一流の手鑑の要件とされる聖武天皇の「大聖武」を冒頭に配しており、それに続く勅筆、親王、撰家、諸卿など一三四葉を表に収めています。裏には高僧や門跡、武家、連歌師など一四〇葉があり、筆者は三三六名にもおよびます。もつとも古いものが奈良時代の聖武天皇であり、三筆・三跡はもとより江戸時代の武家・僧侶にいたるまで、幅広い書跡を収めています。活躍年代の新しい筆者も含まれることから、元禄（一六八八～一七〇四）以降の成立と推定されますが、「熊野切」や「平等院切」、「伊予切」など名高い切も多く、手鑑の優品のひとつに数えられています。

第2展示室で展示中

## 中学生が企画した展覧会を開催します!!

中学生がテーマを決めて選定した当館の所蔵品を展示するという、学校・美術館連携の展覧会企画が進行中です。現在、七尾市立朝日中学校の3年生がこの新しい企画に挑戦しています。学校と美術館が授業を通して一つの展覧会をつくるという試みはこれが初めて。初回の授業では当館のホームページで所蔵品を鑑賞しました。生徒達はどんなテーマで自分たちの展覧会をつくっていくかと興味津々、やる気満々の様子。とてもすてきな展覧会になりそうです。

展覧会開催中の土・日は、生徒達がジュニアガイドになり、作品解説を行う予定です。中学生の感性とアイデアがいっぱい詰まった展覧会を是非ご覧ください。



会期 11月12日(金)13日(土)14日(日)  
12日は鑑賞授業を行います  
13・14日はジュニアガイドを予定しています  
(時間は未定です)  
会場 石川県立美術館 第9展示室  
観覧料 常設展示料金で入場できます

## 次回の展覧会

特集 天神画像と文房具 (前田育徳会展示室)  
特集 大乘寺の文化財 (第2展示室)  
特集 版画の魅力 (第4展示室)  
シャガール、ミロ、東山魁夷

11月26日(金)～12月23日(木・祝)

休館日：11月24日(水)・25日(木)

石川県立美術館だより 第253号

2004年11月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>